

フランス絵画の精華 ルネ・ユイグのまなざし —大様式の形成と変容

2020年4月11日(土)—6月14日(日)

この展覧会では17世紀古典主義から19世紀後半の印象派誕生前夜に至るまで、フランス絵画の最も偉大で華やかだった時代の傑作の数々をお楽しみいただきます



フィリップ・ド・シャンパーニュ 《キリストとサマリヤの女》
1648年 カーン美術館
Musée des Beaux-Arts de Caen, Photo M. Seyve

第1章「大様式の形成、17世紀：プッサン、ル・ブラン、王立美術アカデミー」

17世紀、フランス絵画の新たな発展を支えたのは、ルイ14世のもとで創設された王立美術アカデミーで、フランス美術の古典主義を推進します。この展覧会では、ルイ14世が「大王」と呼ばれたことにちなみ、古典主義を「大様式」と呼ぶことにします。その成り立ちに最も重要な役割を果たしたニコラ・プッサンや、フィリップ・ド・シャンパーニュ、シャルル・ル・ブランらの名品を紹介します。



フランソワ・ブーシェ 《羊飼いのイセに神の姿をみせるアポロン》
1750年 トゥール美術館
Photo (C) RMN-Grand Palais / Agence Bulloz / distributed by AMF

第2章「ヴァトーとロココ美術 — 新しい様式の創出と感情の表現」

18世紀のフランス美術を代表するロココ美術は、それまでの王侯貴族の権威を表現する壮大なモニュメントとしての芸術ではなく、より軽やかで優美な、見て楽しいものを目指しました。優雅な宴を描く「がえんが雅宴画」というジャンルを生み出したジャン＝アントワヌ・ヴァトーや、ロココを代表する画家フランソワ・ブーシェ、風景画で知られるクロード＝ジョゼフ・ヴェルネの作品などが見どころです。



ジャン＝アントワヌ・ヴァトー 《ヴェネチアの宴》
1718–19年頃
エジンバラ、スコットランド・ナショナル・ギャラリー
National Galleries of Scotland. Bequest of Lady Murray of Henderland 1861

クロード＝ジョゼフ・ヴェルネ 《海、日没》
1748年 リール美術館
Photo (C) RMN-Grand Palais / Jacques Quecq
d'Henripret / distributed by AMF



3章「ナポレオンの遺産 — 伝統への挑戦と近代美術の創出」

18世紀末のフランス革命から印象派誕生前夜までの展開を追っていきます。古典主義を受け継ぎつつ、独自の表現を生み出したのが、新古典主義の代表的な画家ジャン＝オーギュスト＝ドミニク・アングルです。ウジェーヌ・ドラクロワはフランスのロマン主義を代表する画家、アレクサンドル・カバネルは19世紀のアカデミズムを代表する画家として知られます。そして、伝統的古典様式、すなわち大様式、をまったく新しいものにしようとしたのが、「近代美術の父」と呼ばれるエドゥアール・マネでした。

ジャン＝オーギュスト＝ドミニク・アングル 《オルレアン公フェルディナン＝フィリップ、風景の前で》
1843年 ヴェルサイユ宮殿美術館
Photo(C) Château de Versailles, Dist. RMN-Grand Palais / Christophe Fouin / distributed by AMF

